

ATVオートバイ用多機能デジタルメーター CV080-XX2取扱説明書

このたびは、弊社製品をお求めいただきまして誠にありがとうございます。本書は CV080-XX2 シリーズ用に書かれています。



針のタコメーターやスピードメーターのスケールが異なるモデルは、以下の通りです。

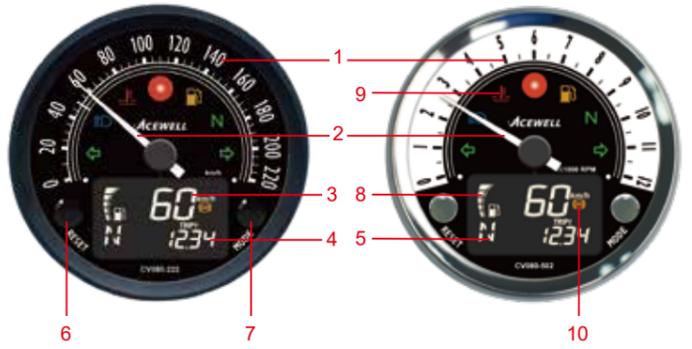


CV080-162: 160km/h	CV080-302: 6,000 rpm
CV080-162: 160 mph	CV080-402: 9,000 rpm
CV080-222: 220km/h	CV080-502: 12,000 rpm
CV080-282: 280km/h	CV080-602: 15,000 rpm

型番最後の“-XX”はベゼルの材質と仕上げを表しています:

- AB:CNC加工アルミニウム製 (ツヤ消し黒)
- CP:CNC加工アルミニウム製 (メッキ)
- なし:プラスチック製

パネル説明



1. タコメーターまたはスピードメータースケール
2. 針式タコメーター/スピードメーター
3. 1列目デジタルスピードメーター
4. 2行目。その他の機能
5. ギア・インジケータ
6. RESET ボタン
7. MODE ボタン
8. バー燃料または温度計
9. 6 LED インジケータ + 1 シフトライト
10. 6 LCD インジケータ

特徴

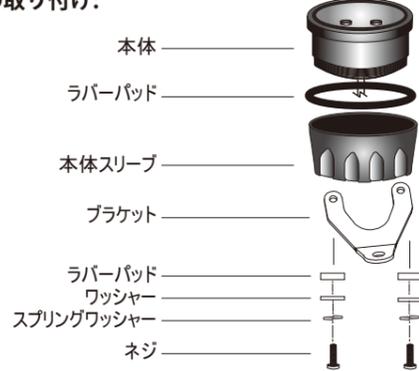
- 針式タコメーターまたはスピードメーター、各種デジタル機能、7つのLEDインジケータと7つのLCDインジケータ。
- スピードメーター、タコメーター、最大回転数および速度、平均速度、トリップメーター1/2または3、オドメーター、走行時間、総走行時間、総エンジン稼働時間、ポルトメーター、温度計、時計、バー燃料および温度計のデジタル機能を表示する反転型VA液晶ディスプレイ。
- 5段階のバックライトの明るさは、5、6、7、8、9から手動で調整可能です。
- 速度と回転数を比較してギアを算出するギアインジケータ。
- 燃料計の満タンと空の抵抗値設定は、ほとんどの燃料センサーと互換性があるように調整可能です。燃料計が必要な場合は、燃料計を無効にすることができます。
- バッテリー警告電圧は11.0~17.0Vの範囲で任意の警告電圧に設定可能。
- オドメーターが30km/18.6マイル未満の場合、ユーザーが任意の値にオドメーターを調整可能。
- 走行距離計と積算走行時間は、電源を切っても記憶しています。
- タイヤ外周長設定範囲は1~3,999mm。
- ブラケット、回転信号線、フィッティングキット、ワイヤーハーネス、温度センサーが含まれます。
- 優れた防水・防振構造、耐ノイズ設計。

機能	シンボル	仕様
デジタルタコメーター	<i>RPM</i>	10 - 19,990 rpm
スピードメーター	<i>MPH</i> km/h	2.4 - 399 km/h (248 MPH)
最高速度	<i>MAX SPD</i>	2.4 - 399 km/h (248 MPH)
平均速度	<i>AVG SPD</i>	2.4 - 399 km/h (248 MPH)
温度計	$\frac{C}{F}$	0°C - 180°C / 32°F - 356°F, HIまたはoFF <0°C 表示 -L-, >180°C 表示 -H-
最高温度	<i>MAX</i> $\frac{C}{F}$	0°C - 180°C / 32°F - 356°F
トリップメーター 1/2	<i>TRIP1 / TRIP 2</i>	0.00 - 999.99 km / 621.11Miles
トリップメーター 3	<i>TRIP12</i>	0.00 - 999.99 km / 621.11Miles
オドメーター	<i>ODO</i>	0 - 999キロメートル, 0-624999マイル
12時間/24時間制時計	<i>PM</i> <i>AM</i>	AM/PM 0:00' - 11H59' / 23H59'
ライディングタイマー	<i>RT</i>	0 - 99H59'59"
総乗車時間	<i>TT</i>	0 - 99999.0H
トータルアワーメーター	<i>HRTT</i>	0 - 99999.0H
電圧計	<i>V</i>	9.3 - 18.0 ボルトと警告表示
ギア・インジケータ	<i>N</i>	N, 1, 2,...8 段変速とOFFモード
メンテナンスリマインダー	 <i>TRIP</i> または <i>HRT</i>	9999km (6213Miles)、9999時間カウンタダウン、またはOFF
バー燃料または温度計	 または 	1 - 5バー、10Q -999Q設定、リザーブモード、または表示OFF

電源入力	DC 9.3 - 18V
タコメーター入力	CDI、イグニッションコイル信号またはECU
スピードセンサ	リードセンサまたはホールセンサ
温度センサー	PT-1/8 "サーモセンサ
速度パルス分周器	1-199 分周
最大速度パルス周波数	5K Hz
タイヤ外周長設定	1mm - 3999mm
外形寸法	Ø80*51.5mm

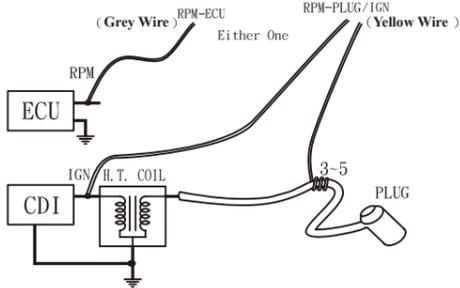
取付けと部品

メインユニットの取り付け:



タコメーターセンサー線の配線:

1. 回転数信号を検知するための黄色または灰色のワイヤーを接続します。
2. 黄色い線は、プラグコードに巻き付けるか、イグニッションコイルコイルの一次側に接続するか、ダイレクトイグニッションプラグキャップのパルス線に接続することができます。
 - a. イグニッションコイルからの信号強度は、コイルの種類に依存します。
 - b. プラグコードに2-5回巻きつけて固定します。巻き数が多いほど信号強度は強くなります。信号が弱すぎる場合には回転数が表示されず、非常に強い場合には過剰に数値が反応します。正しく表示がされないと思われるときには同梱の1MΩ抵抗をセンサー線に割り込ませることをお試しください
 - c. プラグコードに巻き付けた時の信号が不安定な場合、コイルの一次側またはダイレクトイグニッションプラグキャップのパルス線に接続します。
3. それでも信号が不安定な場合は、グレーの線をECUのタコメーター信号線に接続してみてください。

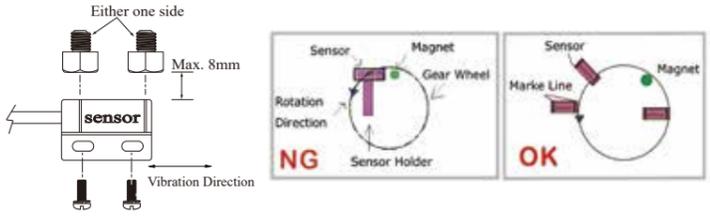


速度センサーの取り付け:

ACEWELLには複数の速度センサーをご用意しております。速度センサーはオプション扱いとなっております。純正ギアボックスの速度出力信号に接続して速度を読み取ることを意図したモデルの場合、速度センサーは付属しません。

リードセンサーとマグネット:

1. このセンサーはオートバイ用に最も汎用性の高いセンサーです。ホイールの回転する部分 (一般的にはブレーキディスク固定ボルト) にマグネットを装着します。
2. 磁石の中心をセンサーの位置決め線またはセンサーの端のいずれかに合わせます。磁石がセンサー本体の下を通らないようにします。
3. 垂直にセンサーを設置することで、防振効果を得ることができます。
4. マグネットとセンサーのギャップが8mm以内であることを確認してください。



ホールセンサとマグネット (日本未発売):

1. このセンサーは、ATVやオートバイのフロントまたはリアホイール取り付け用の汎用センサーです。車種によっては、速度センサーホルダーが必要な場合があります。
2. 磁石を取り付ける回転体 (ディスク、スプロケット、ドライブシャフトなど) と、磁石に向けることが出来るセンサーの取り付け位置を探します。
3. 磁石の中心をセンサー側面の中心に合わせます。
4. マグネットとセンサーのギャップが5mm以内であることを確認してください。



メーターワイヤーセンサー:

純正の機械式メーターと交換することでメーターワイヤーの回転を電気信号に変換するセンサーです。このタイプのセンサーを使用する場合、円周の設定をホイール1回転あたりのケーブルの回転数で割る必要があります。まずはホイール円周として715mm (JIS規格逆算値) を設定してみてください。

温度センサーとセンサーチューブ:

1. セットにはPT1/8水温センサーが付属しています。センサーを適切な位置へ簡単に取り付けするために冷却水ホースに割り込ませるセンサーアダプターをオプションで用意しています。(内径20,22,24,26mm)
2. センサーアダプターは切断した冷却水ホースにアダプターを割り込ませ、付属の締付け金具で確実に固定します。
3. センサーにシールテープを巻き、アダプターに確実に閉め込んで固定します。
4. サーモスタットが開いてから冷却水を補充し、十分にエア抜きを行なってください。

機能

RPM: デジタルタコメーター

1. フルスケール19,900rpmでエンジン回転数を数字で表示します。20,000rpm以上の時には19,999rpmと表示されます。
2. コメーター信号線は2本あり、黄色い線はプラグまたはイグニッションコイルに接続し、灰色の線はECUからの信号を拾います。

シフトワーニング機能

1. 任意に設定したエンジン回転数でシフトワーニング警告LEDを点滅させ、ギヤチェンジのタイミングやオーバーレブを知らせる機能です。
2. 回転数が設定値に達するとインジケータが点灯します。
3. エンジン回転数が設定回転数を下回れば点滅は停止します。

MAX RPM: 最大回転数タコメーター

前回リセット操作以降の最高エンジン回転数を表示します。

km/h または MPH: スピードメーター

1. フルスケール399.9Km/h (マイル表示では248.5MPH) で速度を表示します。
2. スピードセンサーからの最高パルス周波数は5KHzです。
3. 非常に小さな外周長や非常に大きな分周比を設定した場合、速い速度を表示できないことがあります。

MAX SPD: 最高速度計

前回リセット操作を行った以降の最高速度を表示します。

AVG SPD: 平均速度計

前回リセット操作を行った以降の平均速度を表示します。平均速度は、TRIPをRTで割った値です。

TRIP 1 / 2: トリップメーター 1 / 2

前回リセット操作を行った以降の走行距離を表示します。1と2は独立してそれぞれリセットすることが可能です。

TRIP 12: トリップメーター 3

1. 燃料残量警告LED点灯後、TRIP-3(TRIP 12表示)機能が起動し、自動的に残量警告後の走行距離を積算・表示します。
2. TRIP-3は、燃料が燃料残量警告レベルを超えて給油されると、自動的にゼロにリセットされます。

ODO: オドメーター

1. メーター使用開始からの総走行距離を表示します。
2. オドメーターの表示が30Km未満の場合に限り、オドメーターを任意の値に設定することが可能です。▲任意値として30Km以上の値をセットした場合、または取り付け後30Km以上走行してオドメーターの値が30Kmを超えた場合、それ以降、一切の変更ができなくなります。任意値にセットする場合、桁の入力間違いなどに十分注意してください。

RT: ライディングタイム

1. 前回リセット操作を行った以降の走行時間を表示します。
2. 走行を開始すると自動的に積算を開始します。

TT: 総走行時間

1. メーター使用開始からの総走行時間を表示します。
2. この値をリセットすることはできません。

HRTT: 総運転時間

1. メーター使用開始からのエンジン運転時間を表示します。
2. エンジンを始動すると自動的に積算を開始します。
3. この値をリセットすることはできません。

AM/PM: 時計

現在の時刻を12時間制または24時間制で表示します。

°C/°F: 温度計

1. 0°C-180°C / 32°F-356°Fの範囲で測定・表示します。
2. 温度が0°C(32°F) より低い場合、または温度センサーが外れた場合、-L-°Cまたは-L-°F を表示し、温度が180°C または 356°F 以上の場合、-H-°Cまたは-H-°F を表示します。
3. 設定された警告温度以上を検出すると、液晶の温度表示が点滅します。警告中は他の情報表示に切り替えても10秒後に警告表示が再び点滅します。

MAX °C/°F: 最高温度

前回リセット操作を行なって以降の最高温度を表示します。

V: デジタル電圧計とバッテリー警告

1. 車両の電源電圧 (メーターへの供給電圧) を表示します。
2. 設定値には ON・OFF・HIの3種類があり、それぞれの設定範囲は11.0V~14.9V、12.1V~15.0V、14.0V~17.0Vです。
3. ONは低電圧警告開始電圧です。ここに設定した電圧以下になると警告LCD  が点滅します。
4. OFFは低電圧警告終了電圧です。ここに設定した電圧以上になると警告を終了します。この値は必ずONで設定した値よりも高い電圧を設定してください。
5. HI は高電圧警告開始電圧です。ここに設定した電圧以上になると警告LEDが点滅します。

N: ギア・インジケータ

1. 内蔵ギアインジケータは、現在速度と回転数からギア比を計算し、ギアポジションを表示します。
2. ギアインジケータを使用する前に、ユーザーが学習操作をする必要があります。

 **バーグラフ燃料計** または  **バーグラフ温度計:**

1. 5本のバーで燃料の残量や温度の状態を表示します。
2. 燃料計を使用する場合、燃料残が無い時のフューエルセンサー抵抗値と燃料満タン時のフューエルセンサー抵抗値をそれぞれ10~990Ωの間で設定する必要があります。2つの抵抗値に基づき、バーグラフの表示はリアニアに変化します。燃料残が (抵抗値の上で) 10%を切った時、バーグラフ表示は点滅し、(装備されている場合は) 警告LEDが点灯します。
3. リザーブインジケータとして使用の場合は、燃料残量スイッチを入力に接続し、「rES」モードにすると、バー表示が自動的に温度計に切り替わります。スイッチで入力がアースに接続されると、LEDアイコンが点灯します。温度センサー付の車両では、入力線と12Vの間に68Ω5wの抵抗を接続する必要があります。
4. バーグラフ燃料計が不要な場合は、機能をOFFにすることができます。バー表示は、バー燃料計ではなくバーグラフ温度計として表示されます。
5. バーグラフ燃料計の "ON"、"OFF"、"RES "の機能切替時のバー燃料計とバーグラフ温度計の具体的な設定と点滅は以下の通りとなっています。

燃料モード	Temp.モード	バー表示	アイコン点滅	LED点灯
ON ON	℃			
	F			
	OFF			
OFF OFF	Hi	バー表示なし	点滅無し	No LED点灯
	℃			
	F			
rES RES	OFF	バー表示なし		
	F			
	Hi			

+Trip or HRT : メンテナンスリマインダー

1. メンテナンスリマインダーは距離、または運転時間を基準にしてセットすることが可能です。この機能が不要な場合はOFFすることも可能です。
2. 距離を基準とする場合、最大9999kmまで設定可能です。
3. 運転時間を基準とする場合、最大9999時間まで設定可能です。

ボタン操作

MODE ボタン (右)

MODEボタンを押すと、全機能の画面を「→」のように順番に移動することができます。

RESET ボタン (左)

1. リセットボタンは、機能を逆順に循環させます。

2. データのリセット

- 2.1 TRIP1・TRIP2・最高速度・最高回転数・最高温度が表示された状態でRESETボタンを2秒間長押しするとその数値をリセットして0に戻すことができます。メンテナンスリマインダーの数値は設定されたメンテナンス間隔に戻ります。
- 2.2 RIP1・平均速度・ライディングタイムはいずれかをリセットした時点で残り2機能の数も同時にリセットされます。
- 2.3 オドメーター・時計・総運転時間・総走行時間の各値はリセットできません。

シフトワーニング回転数設定:

1. MODE または RESET ボタンを押してデジタルタコメーターを表示させます。そしてスロットルを開け、警告させたい回転数までエンジン回転を上げます。
2. RESET ボタンを押すと、その時の回転数が警告回転数としてセットされます。
3. 以降、設定した回転数までエンジン回転が上昇すると警告LEDが点灯します。
4. 再設定を行う場合は、デジタルタコメーターを表示させた状態で RESET ボタンを2秒間長押しします。

ギアインジケーター学習操作:

1. リアホイールを使って速度を検出している場合、安全に固定されたレーシングスタンドなどで車輪を浮かせた状態で学習させることが可能です。フロントホイールを使って速度を検出させている場合、学習操作のために実際に車両を走行させる必要があります。
2. MODE または RESET ボタンを押して、デジタルタコメーターを表示します。
3. MODE ボタンを2秒間長押しするとギヤポジション数設定モードになります。
4. ギアインジケータが初期値の0で点滅します。
5. RESET ボタンでギヤポジション数を4～6速の中から選択します。「0」を選ぶとギアインジケーターをOFFすることができます。
6. MODE ボタンを押すとギヤ比の学習モードに入ります。5で「0」を選んだ場合には学習操作は終了となります。
7. ギアインジケーターに「1」が点滅します。ギヤを1速に入れ、車両を発進させ、エンジン回転数を2000～4000rpmの間で一定の回転数となるように走行します。
8. 回転数が一定に保たれた状態で約5秒間経過するとギアインジケーターに「1」が点滅します。これで1速のギヤ比が学習されたことになります。
9. MODE ボタンを押すと1速のギヤ比が記憶され、2速の学習に入ります。
10. ギアインジケーターに「2」が点滅します。ギヤを2速に入れ、エンジン回転数を2000～4000rpmの間で一定の回転数となるように走行します。
11. 回転数が一定に保たれた状態で約5秒間経過するとギアインジケーターに「1」が点滅します。これで2速のギヤ比が学習されたことになります。
12. MODE ボタンを押すと2速のギヤ比が記憶され、3速の学習に入ります。
13. 上の10.～12.の操作を繰り返し行い、すべてのギヤのギヤ比を学習させます。すべてのギヤ比の学習操作が終わった状態でMODE ボタンを押すと通常モード(デジタルタコメーター)に戻ります。
14. 学習したギヤ比を保存しないで終了するにはMODE ボタンを2秒間長押しして通常モードに戻ります。

タイヤ外周長一覧表(マグネットセンサー用)

1. 下表は次の計算式を使用して計算しています。
「タイヤの直径(インチ)×25.4(mm)×3.1416 = タイヤ外周長」
表中の直径はホイールサイズではなく、タイヤを含めた直径であることに注意してください。メートル法を用いている日本においては通常はこの表を用いず、タイヤの外径(mm)×3.14で算出した値を設定値として用います。
2. ATV/モーターサイクルのタイヤサイズを変更する必要がある場合は、次の表に示された対応する番号を入力してください。

タイヤ外径	タイヤ外周長 (mm)	タイヤ外径	タイヤ外周長 (mm)	タイヤ外径	タイヤ外周長 (mm)
15 inch	1197	19 inch	1516	23 inch	1835
16 inch	1277	20 inch	1596	24 inch	1915
17 inch	1357	21 inch	1676	25 inch	1995
18 inch	1436	22 inch	1756	26 inch	2075

3. 表の数値は概算値です。実際に車両タイヤの外周長をmm単位で測定するか実際に測定したタイヤの外形に円周率を掛けた値をメーターに設定いただくことを強くおすすめします。
4. 本機は、速度パルスの間隔を測定して速度を計算します。表の数値はマグネットセンサーを使用した場合に限った数値です。
5. メーターワイヤーセンサーを使用する場合、設定数値は「メーターワイヤー軸1回転あたりの距離(mm)」となります。バイクを押してメーターワイヤーを回し、メーターワイヤー軸が360度回転する間に車両がどれだけ進むかをmm単位で計測していただいたものが設定数値となります。一般的な国産車の場合、JIS規格値の「60Km/h=1400rpm」から計算された715mmという値が設定値となります。ただし、ホイールサイズなどを変更している場合は測定が必須です。
6. マグネットセンサーの場合、マグネットを増やすことができます。マグネットを2個にした場合、分周器の設定を「002」にします。ただし、マグネットの数は2コ程度までに留めるほうが良いでしょう。
7. 本機はスピードパルス分周器(1/2～1/199)を内蔵しています。この機能を利用することでスピードパルス数が異なる、例えば車両に装備されている純正スピードメーター用センサーなどが利用できる可能性があります。分周機能の数値はホイール1回転あたりのパルス数を設定し、スピードメーター機能の数値はタイヤ外周長をmm単位で設定します。純正スピードセンサーの流用についてはその正確なスペックや信号の波形などをよく理解した上でなければ、車両やメーターに対して故障の大きなリスクを生じます。最低限、車両の整備書を熟読して接続が可能かどうかの検討を行なって下さい。この機能に関するお問い合わせの際には最低限整備書の内容が必要となりますので、お問い合わせの前にならずご用意ください。また、センサーのスペックによっては接続ができない場合もございます。その際には別売のマグネットセンサーをご使用ください。

時計、バックライト、タコ、外周長、分周、速度センサー方式、単位、メンテナンスリマインダー、バッテリー警告、温度、燃料、オドメーターの設定

1. セットアップモードでは現在時刻、12/24時間制切替、バックライト、シフトワーニング警告回転数、タコメーターパルス数、速度センサー方式、タイヤ外周長、分周比、使用単位、メンテナンスリマインダ、バッテリー警告、温度単位および警告温度、フューエルセンサー抵抗値、オドメーター初期値の各設定を変更可能です。このモードで75秒間全くボタン操作が無い場合には自動的に通常モードへ戻ります。
2. セットアップモードに入るためにはMODEボタンとRESETボタンを同時に2秒間長押しします。セットアップモードの中では、MODEボタンを押す度に設定する項目が移動します。設定される項目は画面上で点滅しています。この状態でRESETボタンを押すと項目の数字が増えたり、単位が変更されたりします。どの画面からでもMODEボタンの2秒間長押しで通常モードへ戻ります。
3. セットアップモードは「12/24H」および「XX:XX:XX」画面から始まります。12/24時間制を選択して、時計を「時」「分」と順番に設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すとバックライトの輝度設定に移ります。
4. 「5 & Led」と表示され、点滅している数字は5～9の範囲で設定可能です。5は最も暗い状態で、数値が大きくなるほど明るくなります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
5. 次に「RPM rXXXX」画面になります。出荷時は「RPM r06500」となっています。シフトワーニング回転数をMODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
6. 次に「RPM P 1r1P」画面になります。出荷時は「RPM P 1r1P」となっています。設定には1r1P、1r2P、1r4P、1r30P、2r1P、3r1Pの6種類があります。数値の「r」は回転、「P」は点火信号を意味します。例えばエンジン2回転当たり1回の点火信号が発生する車両に装着する場合の設定値は「2r1P」となります。
7. RESETボタンを押すたびに設定値が順番に変わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
8. 次に「SE SPD HALL」又は「SE SPD rEEd」が表示されます。HALLはAcewell独自の2線式ホールセンサー(メーターワイヤーセンサー)に使用するモードです。rEEdはリードセンサー(別売のマグネットセンサー)や3線式のセンサーなどに使用するモードです。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
9. 次に「SPD cXXXX」画面になります。タイヤ外周長を設定します。4つの数字は外周長をmmで表しています。MODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
10. 次に「SPD P-001」画面になります。ホイール1回転あたりのパルス数を入力します。付属ワイヤーセンサーやオプションのマグネットセンサーをマグネット1個で使用する場合、設定値は「P-001」となります。MODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
11. 次に単位設定画面になります。RESETボタンを押すたびにKm/hとMPHが切り替わります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
12. 次にメンテナンスリマインダー設定画面になります。「」と「TRIP」「HRT」または「OFF」が表示されます。TRIPでは1000km(621miles)が、HRTでは100時間が初期設定値となっています。「OFF」の時には、この機能は無効に設定されています。設定をMODEボタンで1ケタずつ移動させながらRESETボタンで数値を設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
13. 次に「ON」点滅する電圧の数値が表示されます。「ON」は低電圧警告開始電圧で、この電圧を下回ると警告LEDが点滅します。設定可能電圧は11.0V～14.9Vです。設定を完了すると、次に「OFF」点滅する電圧が表示されます。「OFF」は低電圧警告終了電圧で、この電圧を上回ると警告LEDは消灯します。設定可能電圧は12.1V～15.0Vですが「ON」設定電圧より高い必要があります。設定を完了すると、次に「HI」点滅する電圧の数値が表示されます。「HI」は高電圧警告開始電圧で、この電圧を上回ると警告LEDが点灯します。設定可能電圧は14.0V～17.0Vですが「OFF」設定電圧より高い必要があります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
14. 次に「℃、F、HI または OFF」が表示されます。RESETボタンを押すたびに温度単位、「HI」、「OFF」表示へと変わります。「OFF」にした場合、メーター上に温度計のバーグラフは表示されなくなります。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
15. 次に「℃、XXX」と14で選択した温度単位が表示されます。温度警告を開始したい温度を1桁ずつ設定します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。次に「on、off または rES」と「」が表示されます。バーグラフがすべて点灯している設定画面は燃料満タン時のフューエルセンサー抵抗値の設定画面です。1桁ずつ設定値を入力します。設定可能範囲は10Ω～1000Ωです。バーグラフが1つだけ点灯している設定画面は燃料0時のフューエルセンサー抵抗値の設定画面です。1桁ずつ設定値を入力します。設定可能範囲は10Ω～1000Ωです。「OFF」に設定した時には燃料計の機能はOFFとなり、メーター上に表示は現れません。「rES」に設定した時には入力線がアースされた時、メーター上に燃料のシンボルが現れ、LEDが点灯します。設定が完了したらMODEボタンを押すと次の画面に移動します。
16. 次に「ODO」と「0000X km」表示となります。初期値は工場テストされた距離が表示されています。任意の値に設定する場合、1桁ずつ設定値を入力します。

▲オドメーターの表示が30Km未満の場合に限り、オドメーターを任意の値に設定することが可能です。任意値として30Km以上の値をセットした場合、または取付け後30Km以上走行してオドメーターの値が30Kmを超えた場合、それ以降、この設定画面は現れなくなり、一切の変更ができなくなります。任意値にセットする場合、桁の入力間違いなどに十分注意してください。MODEボタンを押すと最初の時計設定に戻ります。2秒間長押しすると通常モードに戻ります。

(前ページからの続き)

MODE

通常モード に戻る

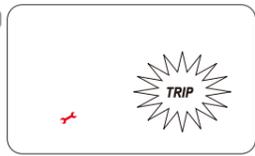
11.



RESET ボタンで km/h か MPH を選択

MODE

12.



RESET ボタンで TRIP か REED または OFF を選択

MODE



RESET ボタンで一桁ずつ設定

MODE

13.



MODE



MODE



MODE

14.



RESET ボタンで °C、°F、OFF または HI を設定

°C または °F を選択

MODE

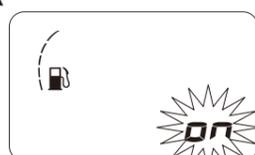
OFF または HI を選択

MODE

15.



MODE



RESET ボタンで on、OFF または rES を設定

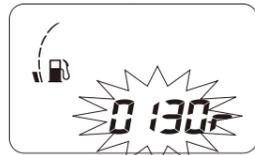
MODE 2sec

17.

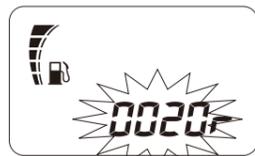


RESET ボタンで一桁ずつ設定

MODE



MODE



MODE

OFF または rES を選択

16.